

ふれあいの森構想スポーツ広場を 整備することを要望する署名運動

ふれあいの森構想スポーツ広場 要望書

新本牧地区の財務省用地は米軍による36年の接收が終わり、区画整理事業を経て財務省に返還されましたが、その後30年以上未利用な土地が現在でも1.5haと1.2haがあり本牧まちづくり会議と新本牧建築協定運営委員会では当該土地の早期利用を財務省・横浜市に要望をしておりました。

平成22年になり、関東財務局より本牧まちづくり会議に対し「横浜市には当該土地の利用予定がない」とのことで土地利用計画提案の依頼がありました。本牧まちづくり会議では、それを受け「ふれあいの森構想」を作成・提案致してまいりました。

「ふれあいの森構想」の理念は、本牧の子供達と高齢者とがふれあうことにより、子供達は高齢者から本牧の郷土愛を学び、高齢者は次の世代を担う子供達に郷土愛を伝える生きがいの機会になるものです。

「ふれあいの森構想 スポーツ広場プラン」は、ふれあいの森構想の理念を基にスポーツを通じたプランです。

本牧には多くの公園はありますがサッカーもキャッチボールさえ満足にできる場所がありません。スポーツ広場では、子供達と高齢者がスポーツを通じてふれあい、高齢者は健康体力維持、子供達は体力向上を図ります。

そして、少年少女サッカーはじめ子供達のスポーツトーナメント会場として考えており、横浜市の各種スポーツのメッカにしたいと考えています。また、地元のサッカーチームの練習場にもしたいと考えています。

また、この地で行われていた日米親善盆踊り大会の復活など、イベント開催地としても考えています。

更には、現在の広域避難場所は本牧山頂公園で高齢者には避難しにくいとの声が多くあります。この広場を広域避難場所にして災害備蓄施設を設置することにより、災害発生の際でも高齢者や障害のある方たちが避難することができます。また仮設住宅用地としても利用でき、多くの命が助かると考えています。

平成23年に制定されたスポーツ基本法に掲げられているように「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利」です。「ふれあいの森 スポーツ広場プラン」は子供たちの育成をしている若者世代が住みたいと思う健康的で安心安全な本牧の地域創りを目指すものです。

スポーツ広場実現のため、署名運動を実施いたします。趣旨にご理解いただき、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

本牧まちづくり会議 代表 高橋敏昭